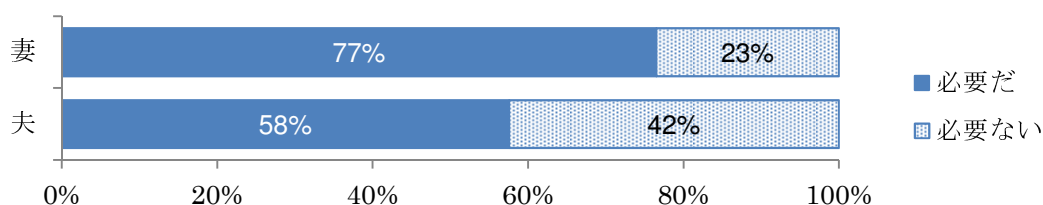


1 子供を望むが不妊検査を受けていない夫婦の意識

(1) 検査の必要性についての意識

必要との意識が多数派となったが、必要ないとする割合は、妻は2割であるのに対して夫は4割となり、妻に比べると夫の方が検査の必要性を感じていない。

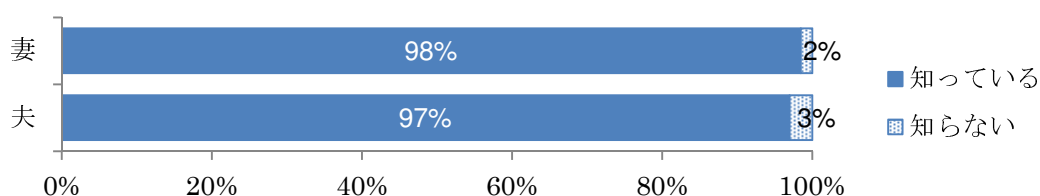
<表1：子供は自然にできると思うので特に検査は必要ないと考えている>



(2) 加齢と妊孕率^{にみょうりつ}にかかる医学的な知識

加齢に伴い不妊のリスクが高まることは夫婦とも高い割合で知っている。

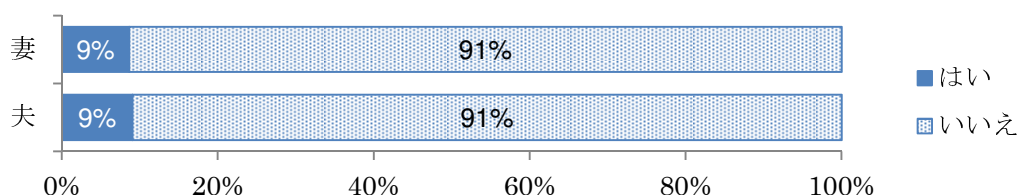
<表2：医学的に年齢が高くなるにつれて妊娠しにくくなるデータがあることを知っている>



(3) 不妊症に対する認識

不妊症の原因は女性だけではないという認識は夫婦とも高い割合で知っている。

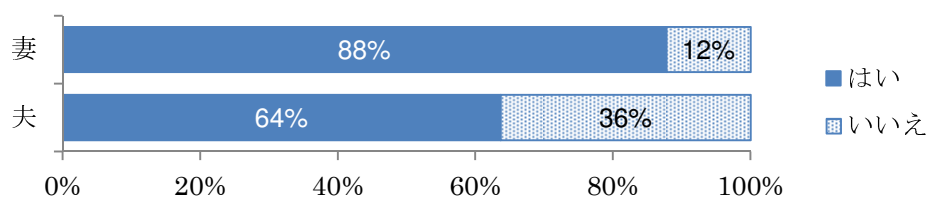
<表3：不妊症は女性の病気だと考えている>



(4) 不妊の定義の知識 (妊娠を望む男女が避妊をしないで性交をしているにもかかわらず、1年間妊娠しないこと)

夫婦とも知っている割合が高いが、妻が9割弱であるのに対し、夫は6割程度と、妻に比べると夫の知っている割合が低い。

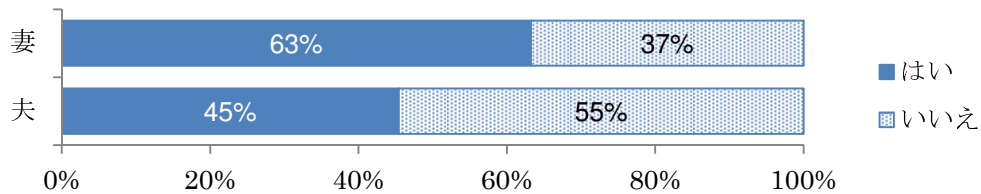
<表4：不妊の定義を知っている>



(5) 不妊症を疑ったことがある

夫は不妊症を疑っていない割合が過半数となったが、妻は不妊症を疑っている割合が過半数となった。

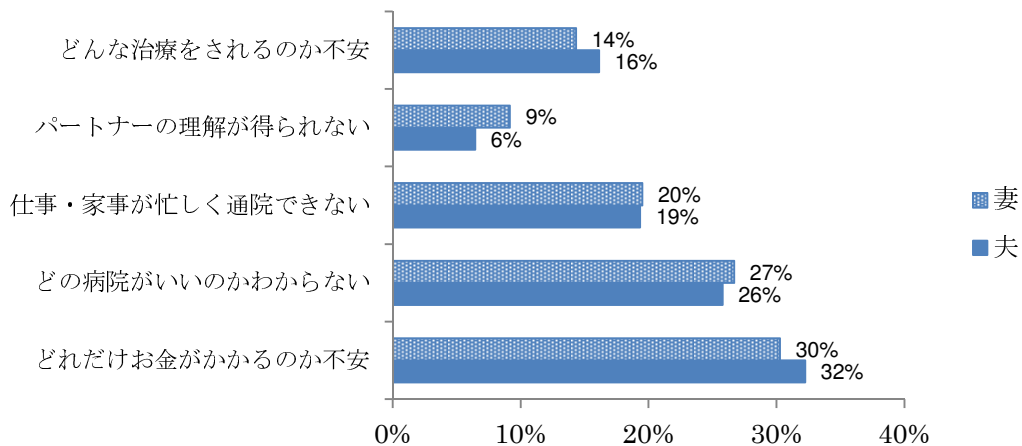
<表5：自分またはパートナーが不妊症かもしれないと考えたことがある>



(6) 検査に行っていない理由

夫婦ともに「検査・治療に要する費用についての不安」が最も多かった。次点で「どの医療機関がいいのかわからない」となり、検査・治療についての情報が不足していることが伺える。

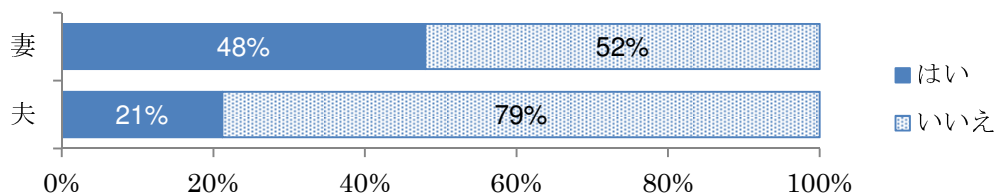
<表6：まだ検査に行っていない理由を教えてください（複数回答）>



(7) 助成制度の認知度

夫婦ともに、助成制度を知らない層が過半数となった。特に、夫は2割程度の認知度となっている。

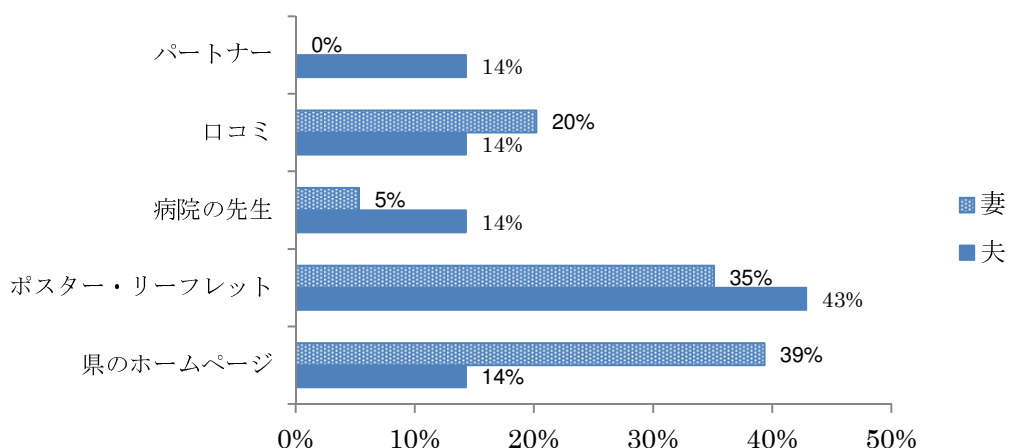
<表7：助成制度があることを知っている>



(8) 助成制度を知った媒体について

「県のホームページ」が回答数としては最も多く、次点で「ポスター・リーフレット」となった。「口コミ」の割合も大きかったことから、SNS等の広報が有効であることが伺える。夫は妻から情報を入手することはあるが、逆は見られない。

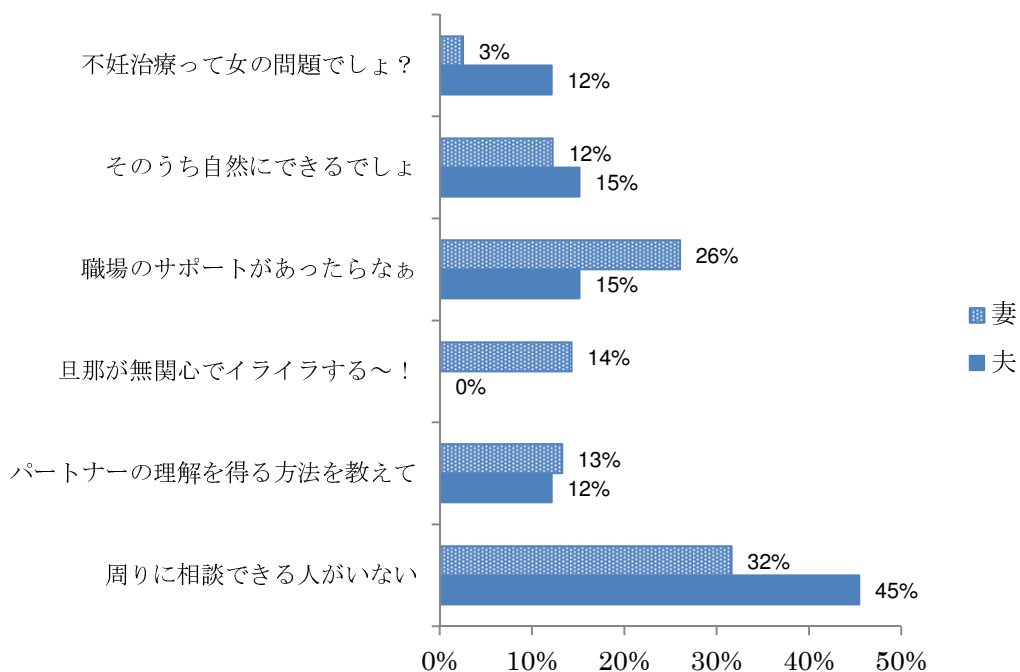
<表8：助成制度をどこで知りましたか>



(9) 妊活・不妊治療についての意識

夫婦とも「相談できる人がいない」が最多となった。特に男性はその割合が顕著である。また女性は職場のサポートについて望む割合も大きい結果となった。

<表9：妊活・不妊治療で特に共感するフレーズを教えてください>

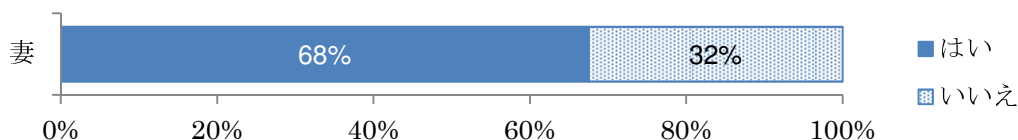


2 妻のみ不妊検査を受けている夫婦の妻の意識

(1) パートナーの協力についての意識

不妊検査を受けていなくても、夫が協力的と考えている妻が7割と多数派となった。

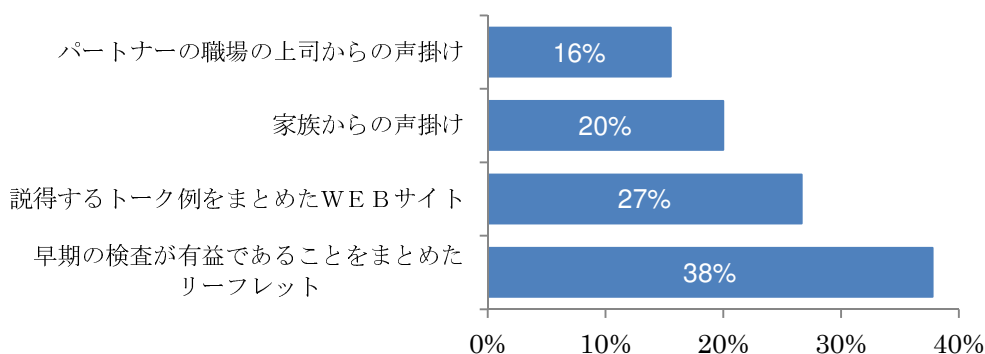
<表10：パートナーは不妊治療について理解がある、または協力的だ>



(2) パートナーの理解を得るために有効なコンテンツ

リーフレットなど可視化した紙媒体が有効との意見が最も多かった。

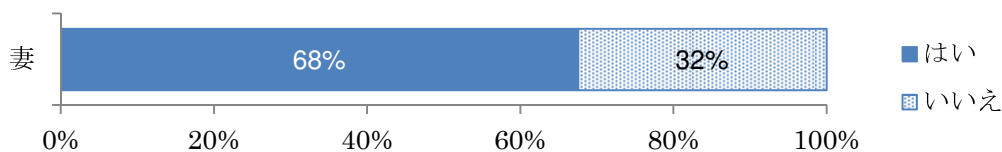
<表11：パートナーの理解を得るためにあったらいいと思うもの（複数回答）>



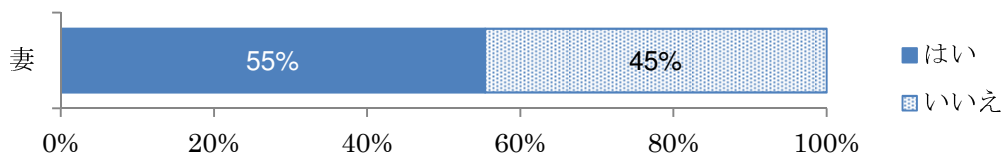
(3) パートナーにも不妊検査に行ってほしいと思っている意識

7割が夫にも不妊検査を受けてほしいと思っている一方で、5割の妻はそのことを夫に言いにくいと感じている。その要因として「パートナーの気分を損ねてしまわないか不安」であることが最も多かった。

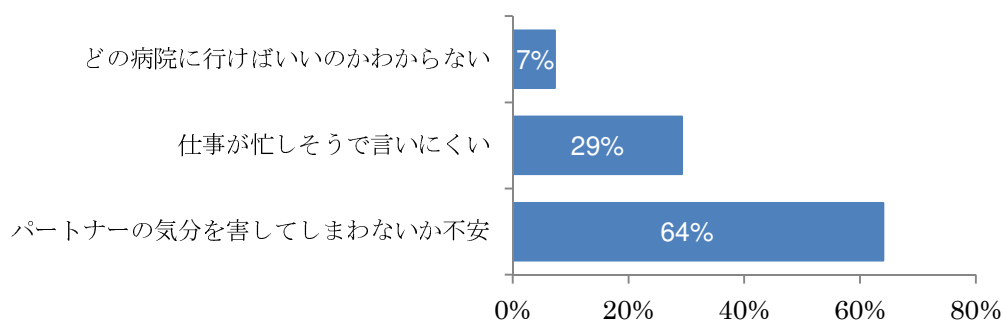
<表12：パートナーにも不妊検査に行ってほしいと思っている>



<表13：パートナーに不妊検査に行ってほしいとは言いにくい>



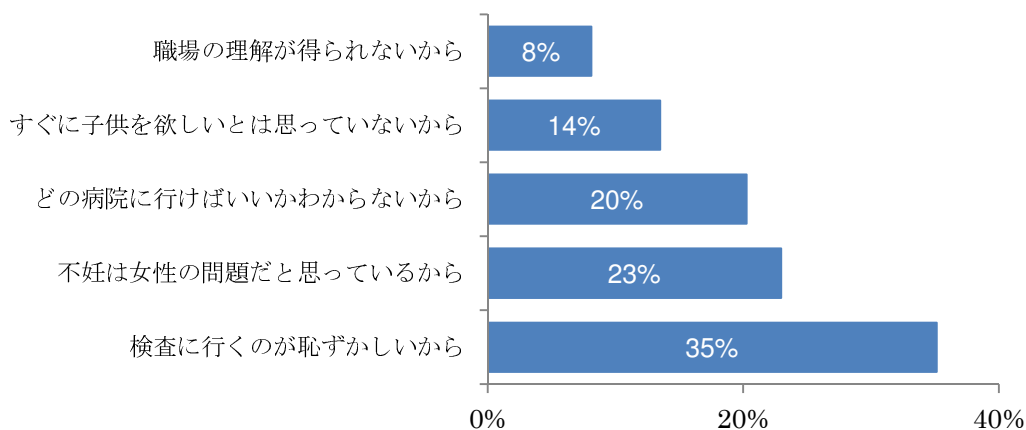
<表 1 4 : 検査に行ってほしいと言にくい理由として最も近いものは何ですか>



(4) パートナー（夫）が不妊検査を受けない理由

「検査を受けるのが恥ずかしいから」が最も多い意見となった。次いで「不妊は女性の問題と思っている」が多かった。

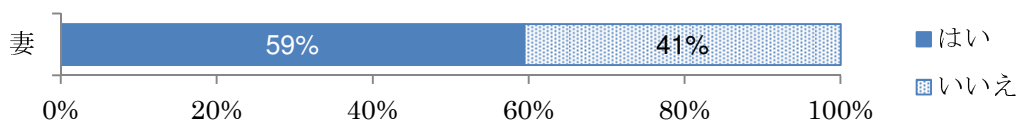
<表 1 5 : パートナーが不妊検査をしていないのはなぜだと思いますか（複数回答）>



(5) 助成制度の認知度

知っている割合は 6 割程度。この層は「夫婦そろって受診すること」が助成の要件と知りながらも夫が検査を受診していない層となる。

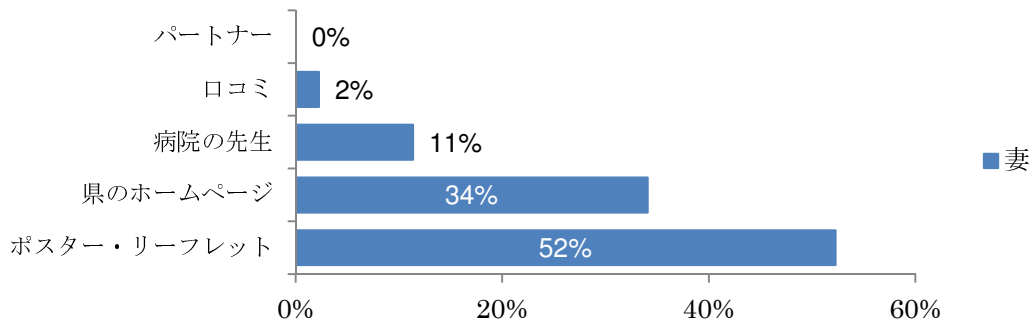
<表 1 6 : 助成制度があることを知っている>



(6) 助成制度を知った媒体について

「ポスター・リーフレット」が回答数としては最も多く、次点で「県のホームページ」となった。ポスター・リーフレットは医療機関の掲示物を見た可能性が高い。

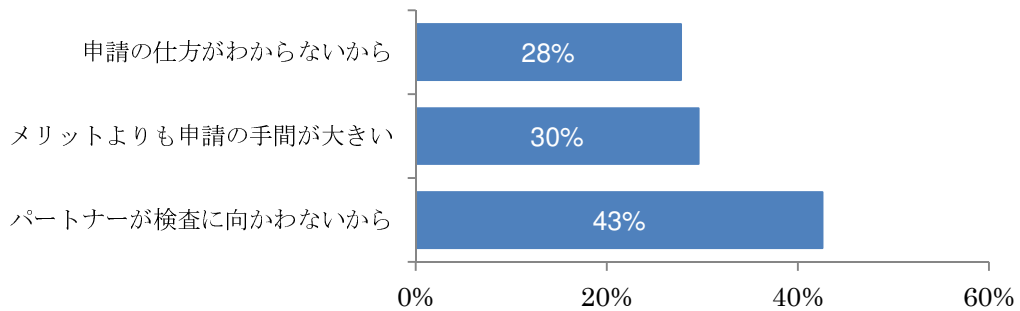
<表 17 : 助成制度をどこで知りましたか>



(7) 助成制度を活用していない理由

「パートナーが検査に向かわないから」が最も多い理由となった。次いで「メリットよりも申請の手間が大きい」、「申請の仕方が分からない」がほぼ同数となり、申請の手順が複雑と感じている層がいることが分かる。

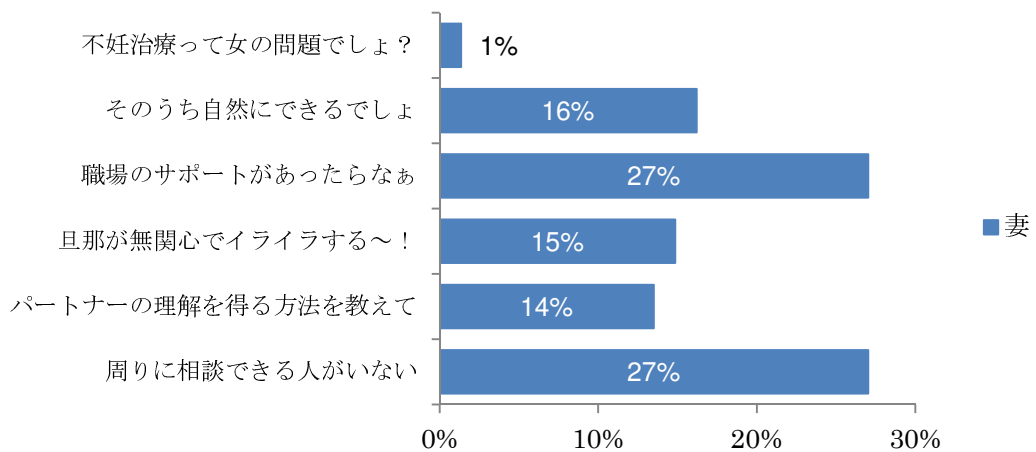
<表 18 : 助成制度を活用していない理由は何ですか (複数回答)>



(8) 妊活・不妊治療についての意識

「周りに相談できる人がいない」「職場のサポート」が同数で最多となった。

<表 19 : 妊活・不妊治療で特に共感するフレーズを教えてください>

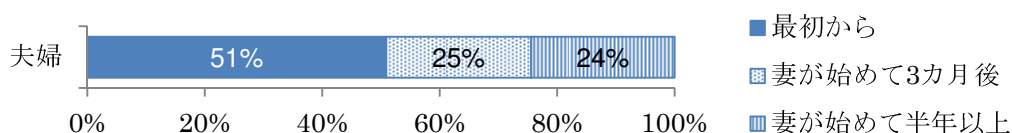


3 夫婦ともに不妊検査を受けている夫婦の意識

(1) 夫婦両方が不妊検査を開始したタイミング

およそ半数の夫婦が「最初から夫婦そろって行った」と回答。残りの半数は妻の検査開始から遅れて夫が検査を開始したという結果になった。

<表 2 0 : 夫婦両方が不妊検査を開始したタイミングは概ねいつからですか>

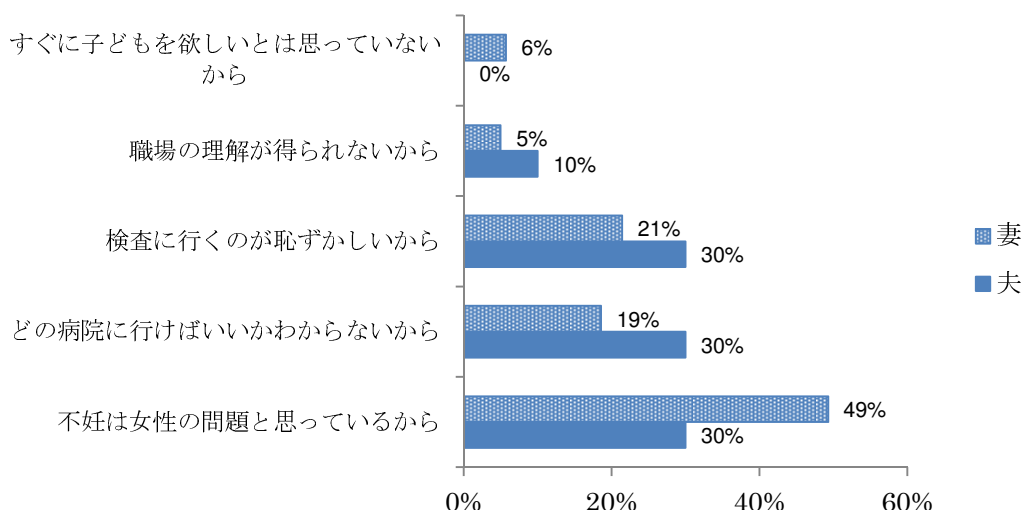


(2) 夫が妻と同時に検査を開始しなかった理由

夫の意見では「不妊を女性の問題とっていた」「どの病院に行けばいいのかわからなかった」「検査に行くのが恥ずかしかった」が同率で最多となった。

妻の意見では「不妊を女性の問題とっていた」が最多となった。

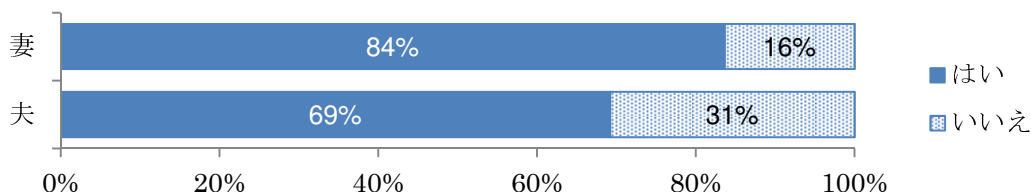
<表 2 1 : 夫が妻と同時に不妊検査をしなかった理由はなぜですか (複数回答)>



(3) 助成制度の認知度

夫婦ともに助成制度を知っている割合が過半数となった。特に、妻は8割以上と高い割合で知っている。

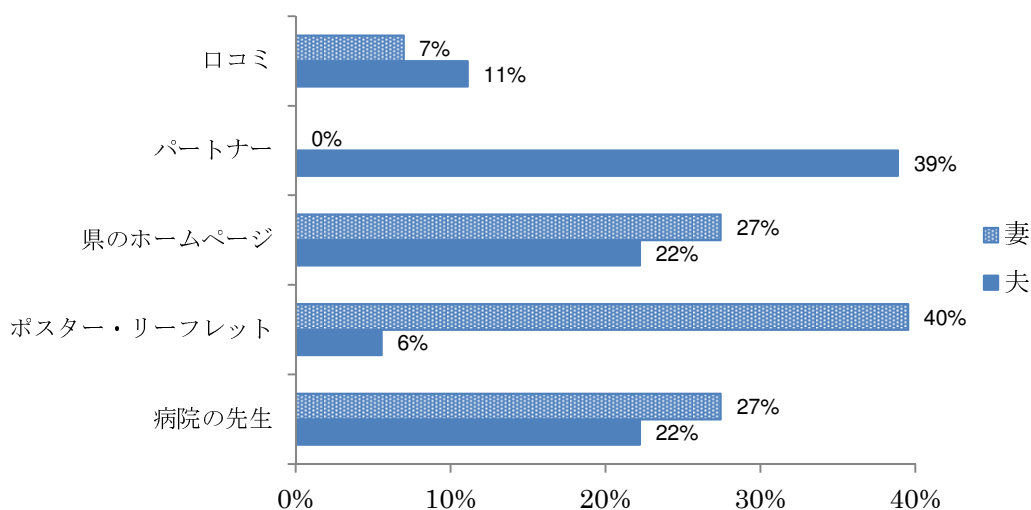
<表 2 2 : 助成制度があることを知っている>



(4) 助成制度を知った媒体について

「ポスター・リーフレット」が回答数としては最も多く、次点で「県のホームページ」「病院の先生」の順となった。一方、夫は妻から助成制度を聞いた割合が最も高く、次いで「病院の先生」、「県のホームページ」の順に多かった。

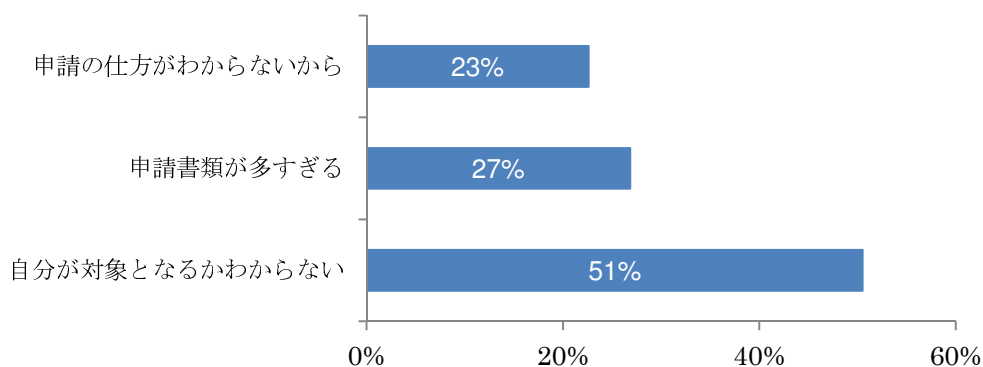
<表 2 3 : 助成制度をどこで知りましたか>



(5) 助成制度を活用していない理由（申請したときに困ったこと）

「自分が対象となるかわからない」が 51%と最多となった。次いで「申請書類が多すぎる」、「申請の仕方がわからない」が続いた。回答者に対して助成制度の利用有無を尋ねていないため、現状申請していない層の純粋な意見は不明であるが、全体として助成制度の手続きが負担に感じられていることが分かった。

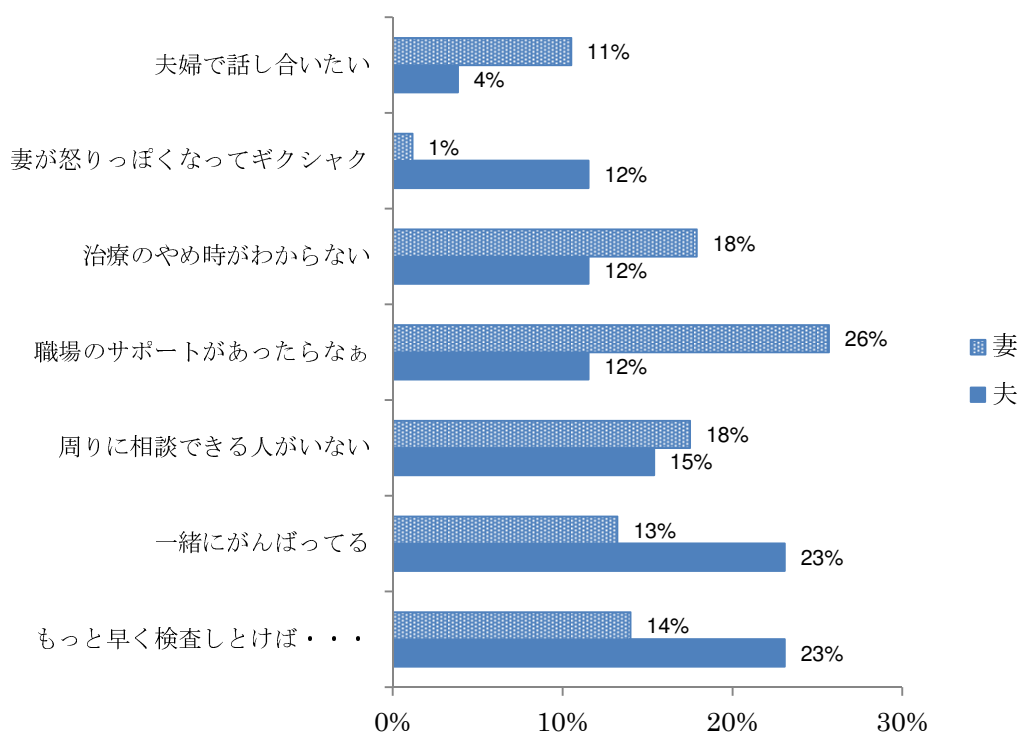
<表 2 4 : 助成制度を活用していない理由（または申請したときに困ったこと）は何ですか>



(6) 妊活・不妊治療についての意識

妻は職場のサポートを望む声が多い。検査・治療は身体の周期の影響を受けることから、急に仕事を休む必要も生じるため、職場の理解・協力を得られやすい環境が求められている。夫は早期に受診すべきだったと感じている割合が高い。

<表 25 : 妊活・不妊治療で特に共感するフレーズを教えてください>



4 夫が不妊検査を受けたきっかけ

回答が多かった順にまとめると「医師から受診勧奨」、「妻からの働きかけ」、「夫がすすんで受診した」、「いつまでに妊娠しなければ受診すると期間を決めていた」、「助成金の要件だから」、「子どもが欲しかったから（妊娠しないから）」等の意見に分類できた。

＜表26：パートナーが不妊検査に行ったきっかけを聞かせてください（記述）＞

区分	意見
医師からの受診勧奨	<ul style="list-style-type: none"> 一人の受診では原因がわからないため、病院の先生に説得してもらった。 初めてクリニックを受診する際、一緒に話を聞こうということで、夫婦そろって行きました。その時に先生から、不妊の原因の半分は男性にもあるから…ということで、早目の主人の検査をすすめられました。 私だけ先に病院に行きましたが、そこで先生が「旦那さんに問題があるかどうかで今後の治療方針が違うから最初に旦那さんの検査もしようね」と教えてくれた。夫も検査をすべき明確な理由を教えてくれたので、私も夫に伝えやすかった。 人工授精にステップアップするため。
妻からの働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> 本格的に不妊治療しないといけないと私が思い、話し合った。 タイミング法を半年以上続けていたが妊娠に至らず、夫の精子を検査するに至った。夫にはとって抵抗された。 最初は行きたくなさそうだったが、男性にも不妊の原因があること、妊娠は1人では出来ないことを、何度も何度も説明して話し合った。 年齢と共に、どんどん妊娠しにくくなったり流産の可能性が上がるなど話し、危機感を持たせました。 無理やり連れて行った。
夫が進んで受診した	<ul style="list-style-type: none"> 検査をするなら二人同時に共通認識があったので、同じ時に受けました。 主人は初めから、どちらかだけ検査に行くのはおかしい。という考えだったため、普通に初めから二人で受診しました。
期間を決めていた	<ul style="list-style-type: none"> 二人で決めた時期までに妊娠しなければ、一緒に検査に行くと話し合っていた。 結婚して1年、なかなか子どもができず、パートナーの方から検査に行ってみようとの提案がありました。できれば早く子どもがほしかったので、検査することで何か次に繋がるものが得られればと思っていました。
助成の要件だから	<ul style="list-style-type: none"> 夫婦で検査を受ければ助成金の申請ができることを知り、それをネタに夫を説得。 ドクターから助成金の申請には夫婦で検査が必用と説明を受け、主人に伝えて協力してもらった。
子供が欲しかったから	<ul style="list-style-type: none"> なかなか授からないので、試しに行ってみようかな。という感じ より早く授かりたいと思ったから

5 妊活・不妊治療中にパートナーにされて助かったサポート

回答が多かった順にまとめると「検査・治療への協力・関心」、「声掛けや励まし」、「話を聞く」、「家事のサポート」、「金銭面のサポートその他」等の意見に分類できた。

<表27：パートナーのどんなサポートが助かったか聞かせてください（記述）>

区分	妻の意見
検査・治療への協力・関心	<ul style="list-style-type: none"> ・タイミングの計画を一緒に立てること。こちらからばかりお願いするような形は、悲しく情けない気持ちになり、夫婦関係に亀裂が入る。 ・嫌な顔一つせず、検査を受けてくれたこと。 ・今日この日をお願いします、と言っても嫌がらない。プレッシャーになっていると思うが、それを口や態度に出さないところ。
声掛けや励まし	<ul style="list-style-type: none"> ・生理がきて落ち込んでいた時、そっと抱きしめてくれたり、涙を拭いてくれたり、「辛いね～。痛い思いもいっぱいしてきたもんね」と、わたしの思いに寄り添い、心の支えになってくれた。 ・生理が来ると、どうしても暗い気持ちになってしまうので、その分主人は常に前向きでいてくれて、ポジティブ妊活を心掛けてくれているところ。
話を聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・辛く苦しくなったとき、変に励ますのではなく、しっかり向き合って話を聞いてくれます。 ・毎月毎月生理がやってきたときと、周囲の妊娠報告を聞いた時のどこにもぶつけようのない悲しい気持ちを共感してもらえること。 ・治療の辛さを傾聴してくれたこと。
家事のサポート	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯物をたたむことや、病院までの送り迎え、部屋の掃除、布団の上げ下げ。 ・検査後や治療・処置後など、病院に行った後は疲れるので、家事のサポートが一番助かる。
金銭面のサポート	<ul style="list-style-type: none"> ・文句ひとつ言わずに病院に行ってくれて、優しい言葉をかけてくれる。私が妊活のために仕事を続けられなくなって家計が厳しくても毎日働いてお金を稼いでくれる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートなし。不妊は女性の問題で自分には関係ないという固定概念しかなかった。

区分	夫の意見
検査・治療への協力	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体温のアプリを共有してくれたので逐一口に出さなくても理解しやすく、タイミングに向けて心の準備もしやすい。 ・病院からの情報を詳しく教えてくれて病院に行けないときでも先生に思いを聞いてくれていた。

6 妊活・不妊治療中にパートナーにしてほしかったサポート

回答をまとめると概ね5と同じ分類ができた。

<表28：パートナーにどんなサポートをしてほしかったか聞かせてください（記述）>

区分	妻の意見
検査治療への協力・関心	<ul style="list-style-type: none"> ・クリニックの日はどうだったのか聞いて欲しい。不妊治療の話をして、話を聞き流したり、他の話題に変えられると、興味がないように感じて悲しいので、興味を持って話を聞いて欲しい。少しくらい、自分で調べて、自分で動いて欲しい。 ・治療の知識を同レベルで知って欲しい。治療は女性がメインになるので夫に直接関係ない部分も大きいですが、治療にはさまざまな選択肢があるので1人で考えるには重い。採卵日や移植日は付き添って欲しかった。
声掛けや励まし	<ul style="list-style-type: none"> ・悲しい時は思いっきり慰めて欲しい。気持ちをもっと言葉に表してほしい。 ・排卵日付近と整理予定日付近に穏やかでいられないことを察してほしい。 ・リセットして気持ちが落ち込んでいる時は、一緒にいて話をしたり（妊活に関係のない話でいいから）してほしい。
話を傾聴	<ul style="list-style-type: none"> ・うまくいかないとき、とにかく話を聞いてほしかった。アドバイスがほしいんじゃない、ただ聞いてそれを受け止めてほしかった。 ・いろんな検査をし、精神的にも肉体的にも辛い時がある女性の気持ちを受け止めてもらえるだけで、治療を頑張れる。
家事のサポート	<ul style="list-style-type: none"> ・検査で身体的にきつかったときに家事を少し助けて欲しかった。 ・病院の送り迎えがあれば助かります。
金銭面のサポート	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭面をもっと考えて欲しかった。 ・金銭的な負担。あとは毎回でなくても検査に付き添ってほしかった。妊娠や不妊治療について不勉強で、あまりわかっていなかった。もっと勉強してほしい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・義理の両親との調整をしてほしいです。最近になって不妊治療をしていると伝えたところ、親切心で色々な情報や意見をくれるようになったのですが、その対応に疲れています。毎回、「ありがとうございます」「気をつけます」などと返すのがストレスになってしまいます。

区分	夫の意見
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・こちらの体調や精神面を考えて欲しいと思う事がありましたので気遣いをして欲しかったです。それは妻も思っているかもしれませんが。 ・もっとコミュニケーションをとり、意思表示をしてほしかった。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・心身共に負担はどうしても女性が多くなるのでサポートはこちらがすべきと思っています。

7 パートナーへの思い

(1) 子供を望むが不妊検査を受けていない夫婦の妻

<表29：パートナーに伝えたい思いを聞かせてください（記述）>

区分	意見
夫の当事者意識	<ul style="list-style-type: none"> ・妊活について、近いうちに病院もいっしょに受診しようとか、妊活について協力的で嬉しい。 ・精液検査等、男の検査もあるし受け身にならず自分から調べたり知識を奥さんに教えられるくらいになってほしい。しっかり理解した上で話し合いを進めて治療を進めたい！ ・なんで妊娠育児の知識は女性だけが勉強するものって認識なの？女性も知識がないから勉強してるのだから、男性もしてよ。男性は、仕事だけしてれば良いって考えは捨ててほしい。 ・よく「(仲良しすることが)義務になると・・・」って言うけど…仲良しするタイミングと回数がすごく大切なことを理解して、自分から行動して！ ・女性任せなことが多過ぎるので、男性ももっと関心を持って欲しい。女性の年齢のリスクもあまり深く考えていない様に思う。 ・妊娠も子育ても夫婦二人の問題だよ。相談に乗る、手伝うじゃなくてあなたも当事者なんだよ。 ・夫婦の問題だと理解してくれていて、必要になったときは積極的に協力してくれる姿勢が感じられるのでとても心強いです。 ・妊活は夫婦二人でするもので、なかなか周りに相談できない分、パートナーとの支え合いがとても重要だとおもう。お互いの心の声をなんでも話せるようなコミュニケーションができるといいと思います。
感謝	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも協力してくれてありがとう。 ・夫をパパにしてあげたいです。ステキなパパになるだろうなと思います。 ・いつも気づかってくれるので感謝してます。
心痛	<ul style="list-style-type: none"> ・正直子どもは普通にできるものだと思っていた。不妊は男女どちらにも原因があるとは分かっているが、子どもをなかなか授かれなくて旦那に申し訳ないって思っている。早く子どもを抱かせてあげたい。ごめんね。
年齢	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いにもう30代、いつまでも若くありません。「自然な流れで・・・」なんて悠長なことってないで。 ・月に1回きりのタイミング、妊娠してすぐ産まれるわけじゃない、時間経つほど難しい。いつかできるじゃなくて、もっと真剣にとらえてほしい。 ・1ヶ月1ヶ月で一喜一憂してる。ゆっくり、いずれなんて言ってもらえない

(2) 妻のみ不妊検査を受けている夫婦の妻

<表30：パートナーに伝えたい思いを聞かせてください（記述）>

区分	意見
夫の当事者意識	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠についての知識がなさすぎる。もっと危機感を持って欲しい！ ・一緒に治療にたちむかって欲しい。 ・不妊治療は経済的にも精神的にも身体的にも負担がかかるので、恥ずかしい気持ちも分かるけど協力的になってくれたら嬉しい。 ・協力する、病院に行くと言いながら行かないのはなぜですか？ ・女性の受ける検査に比べて男性の検査は負担が少ないのに、女性の検査をやり尽くしてから男性の検査になってしまっている現状は非効率的だと思います。夫婦同時に、という流れになってほしいです。
気遣い	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠出産は女性にとって命がけの大仕事です。男性には経験できないわからないことは多いと思いますが、女性の気持ちに寄り添ってもらえるだけで嬉しいですし治療の励みになります。 ・精神的に辛い時は優しくして欲しい。
理解	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し、歩み寄ってくれたら私も、必死にならずにすむので、しんどいかもしれないけど、妊活に協力してください。 ・夫婦の問題だけど、この話になると避けられて悲しい。言いたいことは分かるけど、ゆっくり話したい。 ・不妊治療は不安や孤独や劣等感がありストレスがかかるものだと理解してほしい。 ・想いを聞いてほしい。
年齢	<ul style="list-style-type: none"> ・いつか出来るだろうじゃない。タイムリミットがきてることにもう少し焦って。一人目が出来たから、次も出来るじゃない。一人目も奇跡と思って。 ・女性が妊娠・出産出来る年齢には限界があることに向き合って欲しい！！ ・旦那さんはそのうちできるでしょ！と言うけど、自分の年齢的にもすごく焦る。親からのプレッシャーもある。職場でもなんの悪気もなく聞かれる。ストレスです。 ・いつかできるという歳ではないのでステップアップに理解がほしい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・子供ができれば職場や周囲の人に妊婦のしんどさは理解してもらえる。でも、妊活中は病気でないし、体は確かに正常だから、職場の理解は得にくい。男性が多いならなおさら。それがストレスになってるから、「仕事セーブしたら？」とかの配慮を旦那にしてほしい。金は稼げよ、家のこともしろよだと、子供できないで、ストレスフルでどうしていいか本当わからない。誰に相談したらいいかもわからない。妊活中って本当精神的にすり減ってしまう。

(3) 夫婦ともに不妊検査を受けている夫婦の妻

<表31：パートナーに伝えたい思いを聞かせてください（記述）>

区分	意見
夫の当事者意識	<ul style="list-style-type: none"> ・検査したり協力的でも、どんなに治療をしても夫婦生活がないと子供は出来ない ので、「今日作りする日だよ」と妻の方から子作り子作り言っているとプレッ シャーからセックスストレスになりやすいので、あまり言わなくてもいいように夫の 方からも普段から定期的に夫婦生活をしていて欲しい。毎月言う妻はかなりのス トレスです。 ・知ろうとしないこと、分かってくれない事にいつも腹がたってしまうけど、妊活 を始めることを悩んでいる事を伝えた時には、すぐ同意してくれたこと、出来る 範囲で協力すると言ってくれた時は嬉しかったです。 ・側にいてほしい時に会社のゴルフを入れたり、病院に行った日もこっちから話さ ないと何も聞いてこない。気持ちの温度差を常に感じる。不妊治療は夫婦、家族 の大切な出来事だと感じて欲しい。 ・人の体のことをペラペラ人にしゃべらないで。しゃべっている自覚はないと思う けど。自分のことだと捉えていたら自然と口は重くなるはずなのに。 ・我が家はもう過ぎたことですが、女性には月に1度しか妊娠するチャンスがない こと、もっと真剣に受け止めてください。「明日でもいいかなと思った」は、あま りにも非協力的すぎる。その1日ずらしたことで、1ヶ月を無駄にすることにな る。何千万払っても返ってこない1ヶ月間。妊活に取り組むときに常に念頭に置 いていただきたいのは、『今日が一番若い』ということ。 ・タイミング法をしていると、強制的になり、色々負担になると思うけど、私も精 神的にかなり負担がある。だけど、どうしてもあなたの子供が欲しいから、あな たも頑張って協力して欲しい。 ・いつまで人工受精を続けたらいいのかどのタイミングで体外受精に切り替えるか、 どこの病院にするか・・・一人じゃ決められない！もっと一緒に悩んで、一緒に 調べて欲しい。 ・2人のことなのでもっとたくさん調べたりしてほしい。自分ばかりと思うと続け るのがキツイ。 ・漢方やホルモン剤や注射など、見えないところで色んな負担があったことを労っ てもらえるともう少し一緒に頑張ってる気持ちになれた。 ・タバコをやめてくれたら嬉しい。 ・どちらかが積極的で、それにしょうがなく付き合っているような感じで居られる と、敏感に感じ取って、辛くなるので、逐一話し合いを設けるべきだと思う。

感謝	<ul style="list-style-type: none"> ・旦那には忙しい中タイミングに協力してくれたり、しんどいの朝からクリニックと一緒に来てくれたり感謝しかありません。早くパパにしてあげたいです。 ・仕事も大変なのにいつも妊活を最優先してくれてありがとう。サプリとか苦手だったのに、頑張って飲んでくれてありがとう。こんなに優しい夫をパパにしてあげる事が出来ない妻でごめんね。早く私達が親になれるようにめげずに頑張るからね。 ・うちは男性不妊でした。TESE を頑張ってくれたこと、沢山沢山辛かっただろうけど、本当にお疲れ様、ありがとうという気持ちです。今度は私の番！！ ・不妊治療はほんと出口のないトンネル。今は妊活という言葉があるけど、子どもが欲しいと切実に思うことが口に出せず苦しかった日々が続いたけど、諦めず頑張って良かったね！ありがとう。 ・こどもがいてもいいし、夫婦二人でもいいし(^^)と言ってくれる事が本当に嬉しかった！この人をパパにしてあげたいと心の底から思いました。 ・話を聞いてくれて、一緒に考えてくれて、悩んでくれて、私の気持ちを尊重してくれて本当にありがとう。もしかしたらだめかもしれない・・・と考えてしまう日もあるけど、今は前を向いて頑張ろうと思ってます。両親や祖母に子供をはやく抱かせてあげたいね。はやく2人の子供ができるようこれからも頑張ろうね。 ・不妊治療を始めて、辛いことも多いですが、その分、夫婦の絆は強くなりました。子どものいるなしに関わらず、2人で寄り添って生きていきたいと気づけました。 ・落ち込んだ時、力いっぱいハグしてくれてありがとう。私たちのところに赤ちゃんが来てくれたら最高だけど、最近やっと、周りとは比べたりせず2人家族でも幸せって思えるようになってきたのは、いつも明るく支えてくれるあなたのおかげです。
心痛	<ul style="list-style-type: none"> ・いつもイライラあたってごめんね。 ・生理が来るたび子供を諦めるって言ってごめんなさい。
年齢	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢的に焦っていてごめんなさい。排卵日前だけじゃなくて、普段から仲良くしようね。 ・年齢的にもリミット近いんだぞ！がんばろうよ。
金銭面	<ul style="list-style-type: none"> ・女性側にどうしても負担が多くかかるので、精神面、金銭面できるだけこれからもサポートしてください。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・妊活は夫婦ですもの、私だけが辛いのではなく、きっとあなたも辛いはず、プライドはあるかもしれないけど、辛い時は我慢せず頼ってほしかった。

(4) 子供を望むが不妊検査を受けていない夫婦の夫

<表32：パートナーに伝えたい思いを聞かせてください（記述）>

区分	意見
検査・治療について	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠は夫婦の問題で、夫が妻がというどちらかだけの問題ではないこと。ネットの情報は偏りがちでもあり、医者や相談センターに相談に行けたらいいですね。 ・正直、タイミングなどを事務的に指示されるのが嫌だけど、子どもが欲しい気持ち是一緒です。共に頑張ろう！
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・不安にならず、気になることがあれば相談し合っていきたい。 ・抱え込まなくていいから、しっかり話し合いながら楽しく過ごしていこうね！ ・情報も大事だけどお互いの気持ちを理解し合いながら頑張ろう。 ・お互い努力して頑張っていきましょう。
感謝	<ul style="list-style-type: none"> ・パートナーに恵まれただけでも十分に幸せなことです。

(5) 夫婦ともに不妊検査を受けている夫婦の夫

<表33：パートナーに伝えたい思いを聞かせてください（記述）>

区分	意見
一緒に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・焦らず、周りの声に一喜一憂しない事。不安な事は常に話し合って解決。 ・もう少し、できるところまで一緒に頑張らしましょう。 ・お互いのことだから一緒に前向きに頑張ろう。 ・そんなに頑張らなくていい、そんなに悩まなくていい。そんなこと言わない。二人の子供ができないのはいつだって二人の問題。だから一緒に頑張ろう、一緒に悩もう。 ・正直なところ、すぐに妊娠が成功していたら、女性の大変さを理解してあげることができなかった。結果的に原因は自分であったのに、心の中では君のせいだと決めつけていた。本当に申し訳ない。喧嘩もたくさんしたけど、お互いに思ったことも言えるようになったよね。不妊治療は本当に先の見えない洞窟。これは子どもを授かるための試練だと思って、二人で歩いていこう。
心配	<ul style="list-style-type: none"> ・いつかは子供を授かりたいのは2人とも同じ気持ちです。ただ女性にはとても負担が大きいので無理はしないで欲しい。妊活には出来るだけの事は協力します。 ・とにかく、心が頑張らないようにして欲しい。逆に今しかないかもしれない二人の時間を楽しむぐらいの気持ちで取り組めたらいいな、と思うのは男性のエゴでしょうかね…。 ・妊娠しないことに焦るのはわかるが、二人の事なんで気を楽に持ってほしい。 ・一人で悩まない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・こちらから何かを求めるつもりはないのですが、イライラすることが多くなった気がします。もう少し笑顔をお願いします。

